

覚

一 私共竹嶋^江渡海仕候儀ハ松平新太郎様

因幡伯耆御領知之時分元和^三四年伯耆

国御仕置之為御使阿倍四郎五郎様御越

被成候時分私共親御訴詔申上、翌年御

江戸^江相詰御詮儀之上新太郎様^江御奉

書被遣之、則其御奉書新太郎様より

私親共頂戴代々所持仕難有奉存候、夫より隔

年^ニ兩人^ニ而渡海仕候、就夫八九年之内^ニ老^ニ人

宛罷越御代々様御目見

被為仰付候○延宝九年酉ノ七月^ニ

当御代様^{江茂}村川市兵衛

御目見申上候、以上

○御先代様へ御目見仕候ハ九年已前寛文十三

年七月罷越、小笠原山城守様戸田伊賀守様

本多長門守様寺社御奉行被遊候砌、御目見へ

被為仰付候、大屋九右衛門儀ハ去々未ノ年七月

罷越御目見へ被為仰付候

延宝九年

酉ノ七月十日

伯耆国米子町人

村川市兵衛

右ハ延宝九年酉ノとし市兵衛罷越候、刻

寺社御奉行様へ書上申覚也